

The DIY SQUARE mag

VOL.5



Special Feature:

About DIYer Life!

特集 DIYerのつくりかた。feat. SATOMI YUGI [FOOD EXPERT]

➡ CAINZ CARD POINT 50pt Present !

アンケート回答でカインズカードポイント50ポイント進呈!

アンケート締切: 6月30日

※ポイントは締切の翌月中旬頃に付与します。号ごとに、おひとり様1回までご参加いただけます。

MY WORK SPACE



SATOMI YUGI

料理をもっと楽しみたいから作業導線にも興味が。

「もともと食べることは好きなんですが、忙しく働いていた過去にはそれをおろそかにして。暮らしを見直そう。そう思った時、最初にやりたいと思ったのが料理でした」

現在は料理家としてさまざまな媒体やメディアで活躍する柚木さとみさん。今の仕事についたきっかけは、とても小さなことでした。趣味で料理をつくり始めると、友達が家を訪ねてくることも多くなり、毎週が小さなパーティーのように。料理をつくりながら友達の笑顔を想像したり、一緒に食卓を囲んだ後、楽しい時間を振り返ったり。料理の前と先にある時間も豊かだと感じるようになったそう。「そうなるともっと料理のことだけを考えたい、となって。いかに効率的に作業できるか、キッチンの作業導線にも興味が出てきたんです。流し台の近くには食器棚や冷蔵庫、ガス台の近くには調味料や鍋類があると便利。もともとカフェに勤めていたので、業務用の道



具もすごく好き。そんな風に、自然と自分が過ごしたい空間ができていました」

この棚にはどんな配置をしよう。想像を膨らませながらスケッチを描くことも多いと言います。こんなテーブルがあったらいいなと思ったり、気がつくと自分の「好き」と自然に向き合っている柚木さん。けれど工具はうまく使えないから、難しいことは友達に。自分のできることをやりながら、みんなの力も貸してもらって、理想を実現する。そんな暮らしは心地よく、しっくりきているそう。「古い建物が好きなんです。時間が経つごとに味わい深くなる。それと一緒に調理道具も



20年近く使っているものもあります。機能美と言うんでしょうか？ 楽しく過ごすために手間はかけたいと思う方で。時短にはあまり興味がないんです。だけど凝ったことを毎日するのは大変。だから、効率良く、楽しく、何ができるだろうと考えています」

柚木さんのレシピは素材の味を生かした味付けで工程もシンプル。だけど、例えば野菜



の水分をしっかり切ってから和えるなど、そんなちょっとしたひと手間にはこだわる。無理はしないけれど、少しでも毎日を楽しく。そのためには日々の小さな不便さに気づくことを大切にしていると言います。「なんか違うな。そう思ったらDIY。100%自分の好きな空間で暮らしたいんです」

CAINZ COMMENT

より簡単に。
気持ちよく、素敵に。
掃除ひとつにも個性を。

「おすすめしたい商品はたくさんあります。玄関、リビングなど、自宅で過ごす空間にもそれぞれの個性がありますから。『立つほうき』は世界三大デザイン賞のひとつと言われる“iFデザイン賞”を受賞。シンプルなデザインだから、自分でマスキングしてオリジナルの道具に変身させる楽しみもあるんです。アンティーク

風のワイヤーフレームが特徴の『ケースが要らないワイヤーフレーム』は、壁に掛けてもテーブルがつかないフレーム構造で、インテリアにもすっきり馴染みます。毎日家事で忙しい。そんな方におすすめなのは調理の作業導線に設置できる『扉に掛ける折り畳みくず入れ』です。これだけで、調理がかなり楽に！」

Comment by



渡辺大輔
(オフィス・
家庭用品部所属)

インテリアにも馴染む洗練デザインの道具で、気になる場所をキレイにするのが好き。そんな道具を日々探索中。



Profile 柚木さとみ

4店舗のカフェで統括店長をつとめ、カフェプランナー、フードコーディネーターの資格を取得。カフェのプロデュースやメニュー開発、大手料理教室の講師など、食と食空間に関わる仕事を経験し、現在は料理家の道へ。@yugisatomi

THE WONDER WALL

Vol.01

It's a small world
子どもの小さな世界



子どもの世界は小さい。でもそれは、上に伸びるかもしれないし、横に広がるかもしれない、頭の中にある変幻自在の世界だ。子ども部屋は、そんな頭の中をちょっと覗いてみることができる空間。公園で拾ってきたどんぐりが几帳面に並べられていたり、何を折ったのかわからない折り紙が壁にいくつも貼りつけてあったりする。こんなちょっとしたことで、子どもにとっては立派なDIY。無造作に見えるけど、本人なりにこだわった作品たちなのだ。ヘンテコだけど、なんだか愛おしくて、思わずほえんでしまう。

子どもがひとりのできることは少しずつ増えていく。いずれは大人になって、この部屋から巣立つ日が来るのかもしれない。そう考えるとたまらなくさみしくなってしまうけど、先のことはいったん置いておいて、今はこの部屋に、この壁に、子どもがどんな世界を描いていくのか、その物語をいっしょに楽しもう。子どもの世界は小さい。そして、無限大だ。

Stylist Comment

今回は水槽の中に小さな動物園をつくってみました。子ども部屋にある動物のフィギュアに、ジオラマ用の草木や園芸用の赤玉土さえあれば手軽にできます。最後にブラケットで水槽を壁に取り付ければ完成。ちょっとした工夫で子どもの好きな世界がお部屋の中でも再現できちゃいます。

伊藤良輔

スタイリスト・熊谷隆志氏に師事し、2014年に独立。『GO-OUT』や『OCEANS』などのファッション誌を中心に活躍しながら、そのセンスの良さを発揮してアウトドアシーンやインテリア、植栽の分野まで活躍の場を広げている。



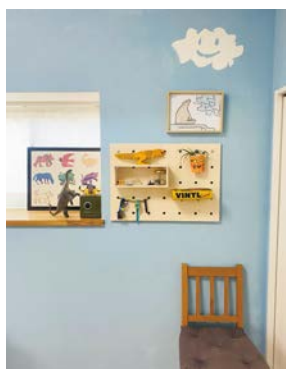
CAINZ STAFF / THE WONDER WALL



宮尾千春
(ロイヤルティ
推進G)

子どもといっしょに 壁をペイント！

塗り途中で描いた雲のラクガキも、子どもの希望でそのまま残しました。色ムラがあるのもお気に入り、見るたびに壁塗りを楽しんだことを思い出します。



村山千鶴
(家電部)

ウォールシールで カラフル&楽しく！

1歳の子どもの部屋の壁に、存在感のある大きなウォールシールを。もともと白かった天井には、貼ってはがせる壁紙でアクセントカラーを入れました。



本木紫
(インテリア・
ファニシング部)

押入れを改造して クローゼットに

奥の壁一面に人工芝をタッカーで打ち付け、中央には端材等で棚を作成。レースカーテンで目隠ししています。子ども用につくりましたが、今は夫婦で愛用中。

